

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 29 年度第 8 回）議事録

日 時：平成 29 年 11 月 24 日（金） 10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第 1 会議室

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、門田守人理事、南砂理事、松本洋一郎理事、児玉
安司理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成 29 年度第 7 回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 議事録署名人を松本理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

- ・ なし

III. 報告事項

1. がん診療連携拠点病院等における治療実態調査

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ 現行の診療ガイドラインは高齢患者を考慮していないなどの課題がある。それを踏まえ、より積極的な検討が必要ではないか。また、診療ガイドラインの実施状況に着目し、その見直しにも使えるのではないか。
- ・ 報道ではいろいろな書かれ方をするとと思われるので、丁寧な説明が必要。
- ・ 費用対効果、高齢患者への対応など社会的関心は変化しつつあるので、これに対応していく視点も重要。

2. がん診療に携わる医師の緩和ケア知識・困難感に関する調査

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ 患者サイドに着目した緩和ケアの効果は、かねて課題となっており、医師側だけでなく患者側の調査も実施してほしい。
- ・ 患者体験調査の 2 回目を来年度実施予定であり、その中で患者サイドに着目して系時的な効果も検証していく。

3. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の提案

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・医療提供の仕組み自体の改善も、今後、検討されるべき。
- ・がん対策基本計画が改正を重ねる中で、社会的な要望や予防・検診などの課題が拡大しており、これに対応し、拠点病院の位置づけや機能に立ち返り、基本的なことを含めたディスカッションが必要。
- ・拠点病院に課される多様な機能を考えると、それを支える事務局機能の強化も重要。その際には、運用が硬直化しないような工夫も必要。
- ・拠点病院に付加される現行の診療報酬や補助金の範囲でできることや、機能を追加されるのであればそれに必要なコストなどが、考慮されるべき。

4. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・業務委託契約については、人件費を加えた上で内製化と比較するといった視点も重要。
- ・投資については、一般に、関連する要素をまとめた方が、契約時のネゴシエーションによる効果を期待できるのではないか。

5. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・臨床研究法により、現場のハードルは高くなるが、研究の質の確保といった面では先進国水準になるのではないか。
- ・認定臨床研究審査委員会に関連し、委員間の互惠互助的な意味合いが出てくるかもしれない。
- ・審査手数料については、金額水準や内外差などを含めた検討が必要。

6. 広報実績

資料に沿って報告された。

7. 10月分月次決算

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・会計処理の誤りを防ぐためのチェック徹底、病院の医事機能強化などに取り組み、具体成果をあげてほしい。
- ・センターのブランド力だけに頼らず、他医療機関からの紹介など、患者来院チャンネルの在り方について分析し、更に高めていく取り組みが必要。